

ワークシート 資料編

1 ワークシート（顕著な回答例を併せて記載）

テーマ学習 世界恐慌と日本

～世界恐慌が世界と日本に与えた影響を考えよう～

世界恐慌とは

1929年、10月24日（暗黒の木曜日）、ニューヨークのウォール街にある株式市場において、株価が大暴落。それが世界各国に広がっていった。恐慌は自由な経済活動によって成り立っている市場経済では珍しいことではなかったが、この時の恐慌は世界への影響の深刻さは未曾有のものであり、「世界恐慌」と呼ばれた。

問1 これは世界恐慌中の各国の工業生産の増減割合の推移を示したグラフ〔ロイロノート資料①〕である。→に該当する国はどこか。またその判断に至った理由も書きましょう

生徒記入例

- ・ソ連。社会主義だから
- ・ソ連。他国の影響を受けなかったから。
- ・ソ連。計画経済に移っていたから。
- ・ソ連。社会主義国だから、資本主義国と違ってダメージを受けない。

【グラフ】（一部加工）
「恐慌中の工業生産(1)」
〔『世界史詳覧』、浜島書店、
2018年発行、P.266〕

参考資料 恐慌中の工業生産 【縮小版】

問2 恐慌中の工業生産 【縮小版】

〔ロイロノート資料②〕を参考に、アメリカ・イギリス・ドイツの世界恐慌中の状況と、恐慌対策を教科書や、インターネットを参考にグループごとに小レポートにまとめ、ロイロノート上に提出しなさい。

米：ピンク 英：水色 独：薄黄色

【グラフ】（一部加工）
「恐慌中の工業生産(2)」
〔『歴史総合 近代から現代へ』、
山川出版社、2021年発行、P.133〕

<p>アメリカの状況・対策</p> <p>レポート概要</p> <p>株価の大暴落が起きてから、銀行、銀行が融資していた企業、工場が次々と倒産。自殺者が増え失業者が25%にまでなった。</p> <p>対策：ニューディール政策。これは、ルーズベルト大統領が銀行救済法と公共事業の拡大、社会保障法を制定したものの。</p>	<p>イギリスの状況・対策</p> <p>レポート概要</p> <p>失業者が270万人を超える→失業保険額の膨張により、支払いが困難になる。</p> <p>【対策】ブロック経済を行う。→金本位制を停止して、通貨や物資の流通をイギリスと植民地に限定し、その間の関税を引き下げるといふ政策。</p>	<p>ドイツの状況・対策</p> <p>レポート概要</p> <p>◎ファシズム</p> <p>[指導者]：ヒトラー</p> <p>[特色]：指導者に対する絶対の服従と、反対者に対する過酷な弾圧、対外的には反共(反共産主義)を掲げ侵略政策をとる。</p>
--	---	--

問3 各国の小レポートと、ロイロノート資料③～⑥を参考にして、当時の日本はどこの国の恐慌対策を真似るべきだろうか。また当時の日本はどのような方向に進んでいくべきか。グループで話し合い、個人でロイロノートに提出しましょう。

メモ欄

生徒記入例(ロイロノート提出)

- ・ドイツとは失業率や状況が一番かけ離れており、ファシズムを行ったとしてもメリットがない。イギリスのブロック政策だと日本は満州。よって、公共事業の拡大なども行ったニューディール政策が一番日本に適していると思う。(評価B)
- ・ニューディール政策は経済力の無い日本には現実的ではなく、公共事業を行うための資本もその資本源も存在しない。また、他国とブロック経済を組むにも植民地が無いため現実的ではないから。よってドイツを真似せざるを得ない。

(評価A)

アメリカ：14人 イギリス：0人 ドイツ：4人 その他：4人

解説

問4 世界恐慌のあと日本の工業生産額は怎么样了か予想してみよう

生徒記入例

減る。…他国のブロックに入り込めないから

増える。…満洲進出のために、軍需物資などの工業生産が増えたのではないかな。

感想 わかったこと

生徒記入例

- ・各国に合った恐慌対策があることが分かった。日本がどのように経済回復したのか気になる。
- ・世界恐慌の後、ドイツのような体制になっていったのも仕方がなかったかもしれないが、ファシズム化が戦争につながったと考えるとよくなかったと思う。
- ・日本やドイツのようにしっかりとした対策が採れなかった国が早く経済回復したことに驚いた。
- ・〇〇君が言った天皇を活用した政策はとても面白いと感じた。
- ・はじめはニューディール政策がいいと思ったけど、他の人の意見を聞いて、ドイツのような政策をせざるを得ないと感じた。ただ独裁のような政治は経済力が落ちていくと思ったけど、他国より経済発展したことはすごいと思ったし、驚いた。

2 資料（史資料を提示するときの問い①～④も併記）

問い① →この国はどこか。

資料1

【グラフ】（一部加工）
「恐慌中の工業生産(1)」
（『世界史詳覧』，浜島書店，
2018年発行，P.266）

問い② アメリカ・イギリス・ドイツの恐慌期の
状況と恐慌対策をグループごとに小レ
ポートにまとめなさい。

資料2

【グラフ】（一部加工）
「恐慌中の工業生産(2)」
（『歴史総合 近代から現代へ』，
山川出版社，2021年発行，P.133）

問い③（先ほどの小レポートを見て）米，英，独の対策を参考に日本がとるべき対策を考察する。

資料3

【地図】
「20世紀の各国領土・植民地」
（『世界史詳覧』，浜島書店，
2018年発行，P.266）

資料4

【資料】（一部加工）
「満洲・蒙古を狙おうとする松
岡洋右の発言」
（『新詳日本史』，浜島書店
2021年発行，P.290）

資料5

【グラフ】
「各国の失業率」
（『世界史詳覧』，浜島書店，
2018年発行，P266）

資料6

【グラフ】
「各国のGDP」
（「齋藤潤の経済パーズアイ 第80回」，
公益社団法人，日本経済研究センター，
[https://www.jcer.or.jp/j-
column/column-saito/20181120.html](https://www.jcer.or.jp/j-column/column-saito/20181120.html)）

問い④ 日本は世界恐慌ののち、植民地拡大、ファシズム体制への移行、積極財政などが行われたが、それについてどう思うか。またその政策により、工業生産額は怎么样了か、予測してみよう。

資料7

【グラフ】(一部加工)
「恐慌中の工業生産(2)」
(『歴史総合 近代から現代へ』,
山川出版社, 2021年発行, P.133)

2 参考文献

- ・『新詳日本史』(浜島書店, 2021年)
- ・『世界史詳覧』(浜島書店, 2018年)
- ・『歴史総合 近代から現代へ』(山川出版社, 2021年)
- ・「齋藤潤の経済バズアイ(第80回)」
(日本経済研究センター, <https://www.jcer.or.jp/j-column/column-saito/20181120.html>)